

「クィア」から見る日本文化

“Queering” Japanese Culture

国際日本学研究所では、トランスナショナルな視点から日本の社会・文化・政治を捉える研究会を開催しています。今回は、フランスから二人のトランスナショナルな研究者をお招きし、境界を超える「クィア」な視点から、日本の文化・芸術作品やコミュニケーション文化を分析していただきます。

対面開催
・
参加費無料



2024年

6月13日 (木)

17:30~20:00

法政大学
市ヶ谷キャンパス
新見附校舎3階

A305 教室

使用言語 日本語・英語

お願い QRコードから事前に
参加申込をお願いします

司会
Chair

高田 圭

(TAKATA Kei) 法政大学

報告 1 チェリー・オケ

(Thierry Hoquet) パリ・ナンテール大学

Presenter 1

日本をクィアリングする

—身体とアイデンティティのVerfremdung [異化]

「日本」という対象にクィアな手法(視点)を適用するとどうなるのか?…クィアという新たな視点を通じて世界を見てみると、通常の経験の枠組みを超えた「未来の片鱗」が現れる。こうした「異化効果」の概念を援用して、本報告では、さまざまな日本の芸術作品を分析する。

報告 2

ピエール・ニーデルガング

(Pierre Niedergang) パリ・ナンテール大学

Presenter 2

「クィア」な視点から見る『間』

「間」をめぐる規範にクィア理論を照らしてみるといくつかの興味深い問いを投げかける事ができる。…その「間」を構成する規範は、果たして「自然」なものなのだろうか?また、そこにはどのような力関係がはたらいっているのだろうか?そして、「間」の適切性また不適切性を構成するこれらの規範は、異性愛規範とどのように結びついているのだろうか?